

熊本学園大学 水俣学研究センター 主催

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウム

水俣病の現在と水俣学の創造

水俣病発生確認の一九五六年から半世紀以上が経過し、水俣病事件は社会的には終息しつつあるとみなされている。しかし、今なお水俣病は学術的にも政策的にも被害者の補償と救済の面において解決されたとは言いがたく、抜本的解決策が呈示されず、地域再構築に進むことができていない。公害の原点、水俣病がなぜこのような状況にあり、その解決の方策を解明していくことは、開発途上国を中心に公害問題を抱える海外においても重要なことであろう。

この研究プロジェクトにおいては、原田正純氏が提唱した水俣学の理念と方法を発展させ、水俣病被害の実態、発生機序、さらに被害民にとつての課題を明らかにする。その基礎の上に水俣病によって脆弱化した地域社会や大量の水銀が眠る水俣湾埋立地など環境の課題と過去から今日に至る過程をふまえた地域再構築戦略を、住民参加と地域の民主主義形成に基づいて再検証することにより構想することを目指してきた。本シンポジウムは、その成果の報告を目的としている。

報告

花田昌宣（水俣学研究センター長）

水俣と水俣病の将来を構想する
—水俣学研究の到達点—

田尻雅美（水俣学研究センター研究員）

健康・医療・福祉相談から見える
水俣病被害の実態と施策の課題
—被害者が求めるもの

中地重晴（水俣学研究センター事務局長）

水俣の健康リスクと環境リスクを
再検討する

藤本延啓（水俣学研究センター研究員）

水俣市円卓会議の経緯と
ゼロ・ウェイスト政策

井上ゆかり（水俣学研究センター研究員）

水俣学アーカイブを活用した
研究拠点形成に関する実証的研究
—水俣の知識インフラの拡充に向けて

2019年12月23日（月） 13：30～16：30

熊本学園大学 14号館2階 1422教室 * 参加無料

お問い合わせ 熊本学園大学 水俣学研究センター

TEL：096-364-8913 / FAX：096-364-5320

E-mail：minamata@kumagaku.ac.jp

